

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	目標等の公表先
川場村	①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	令和4年度の全国学力学習状況調査(令和4年4月)において「地域の大人に授業・放課後において教えてもらったり一緒に遊んでもらったりすることがある」の回答が43.8%だったものが令和5年度(令和6年3月)には39.4%と前年度を下回っている。	昨年度は、推進員や地域の方、先生方との交流の場と居場所としてコミュニティ・ルームを設置した。しかし、設置時期が遅かったことや、使用方法等の決まりや周知が出来なかったため、推進員が週1日以上学校に入られる時間を確保することが出来なかった。	コミュニティ・ルームを活用し、推進員が週1日以上学校にいられる時間を確保する。	教職員が推進員と係わる時間が増えることにより、地域のボランティアと学校がより繋がりやすくなり、授業で子ども達がボランティアとの関わりが増え「地域の大人と関わった」と感じるようになる。	年度末アンケートにおける「よくあるときどきある」と答える児童の割合	39	%	50	52	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。 アンケートにおいて「地域の大人に授業・放課後において教えてもらったり一緒に遊んでもらったりすることがある」の回答が令和5年度(令和6年3月)は39.4%が令和6年度(令和7年3月)では52%と前年度を上回った。これには、推進員が教職員と係る時間が増えたことで放課後や週末だけではなく、教育課程内での地域人材活用が増えてきたからだと考えられる。しかし、そうした中でも、授業において、小学校と中学校では地域の「人」「こと」を生かした活動に差が出ている現状がある。今後、義務教育学校である川場学園となり、より多くの学年の教職員と推進員が係れるようにしていくことで、子ども達とボランティアとの係りを増やしていく。	https://www.vil.kawaba.gunma.jp/kuurashi/fukushi/kyouiku/post_3.html